道徳通信

～「ソーセージ」の悲しい最後～

愛西市立
八開中学
道徳通信

令和４年３月 23 日の授業

～～「人と自然がよりよい関係を築くためには、どんな考えが必要だろう」について考えました～～

雌のヒグマが，車の行き交う国立公園の近くに姿を現すようになります。その後すぐ、知床財団にとんでもない知らせが飛び込んできます。観光客が彼女にソーセージを投げ与えたのです。彼女にとって人や車は，食べ物を連想させる対象になり、人にどんどん慣れていってしまいました。人に慣れさせまいと財団は彼女を追い払い、厳しくお仕置きします。餌付けられたクマの人身事故の前例があるからです。しかし，彼女はのんきに出歩き続けます。そしてついに、市街地まで入り込むようになります。ある朝、彼女は小学校のそばでシカの死体を食べ始めます。人に出会ったら、何が起こるかわからない。決断の時。彼女は射殺されることになったのでした。

観光客の身勝手な餌やりが原因で駆除されてしまったヒグマのエピソードを通して、人と自然が，よりよく関わっていくことについて，考えました。

◎　「ソーセージ」を撃つ？撃たない？

撃　つ	撃たない
●●　●●くん　被害が出てからじゃ遅い。 ●●　●●くん　熊には当てないギリギリのところを狙って熊を驚かせ、山の方向に行かせる。 ●●　●●さん麻酔銃で撃つ。市民とソーセージの安全を守るため。	●●　●●くん　自然を守りたいわけで、熊を殺すのは自然を守ることと反するから。事件が起きると完全には言い切れないから打ちたくない。 ●●　●●さん　まだ人身事故を起こしたわけではないから。

◎ 授業を振り返って

●●　●●くん熊がいて写真を撮りたいのもわかるけど近づきすぎると人慣れして街に出ていってしまうから、知床財団や熊についての知識がしっかりある人の言うことを聞いて行動しないと殺したくなくても殺さざるをえないことになるんだなと思った。

●●　●●くん動物について知ることが必要だと思った。ブサオたちも、クマについて知らない人たちによって殺されたと言っていて、その通りだなと思った。悲しい思いをしないために、動物を知ることによって、共存できると思った。

●●　●●くんヒグマが殺されるのは財団のせいではなく熊を取り囲んでいた人たちのせいだということを知ることができてよかった。動物に餌をあげると人に親近感を感じて近づいてくると思うのでこれからは餌をあげないようにしたい。また、野生動物には近づかないでおこうと思う。

●●　●●さん　ビデオを見て、熊を殺した人は涙を流していた。言葉も熊への想いがすごい詰まっていた。でもそんな人がいるとは知らず、知識を持っていない人、興味本位で近づいたりルールを破った人たちは熊を殺した人を（ビデオ内では財団の人）批判した。これは本当におかしい。自分達の行いのせいで命がなくなっている。それは自分もしっかり理解し、正しい人であろうと思った。

●●　●●さん動物が可愛い、危険という大きくいって二つの考えに捉われない。捉われているままだと、人にも危険が及ぶし動物にも危険が及ぶ。だからこそ、動物の行動を知ってなぜ危ないのか考えて行動すると人も動物（自然）も共存していけるのかなと感じた。

●●　●●さん熊などの動物が駆除という形で命を失うのは全て人間目線で考えているからだと思う。動物だけそんな思いで終わらないためにも命の重さ（重要さ）や大切さを分かり合えるようにしていきたい。

●●　●●さん人と自然がよりよい関係を築くためには、正しい知識を身につけるのが大事だと思った。他の人がやってるからいいみたいな考えがなくなってほしい。自然がなくなっていることは人のどんな行動によるものなのか考えて生活できたらいいと思う。